

## 政務活動報告書

令和1年5月21日

〔会派名：無会派〕

代表者氏名	森脇和徳	印	記録者氏名	森脇和徳	印
活動者氏名	森脇和徳				
活動日	平成31年4月24日（水）～平成31年4月26日（金）				
活動先	石垣市役所・石垣市污水处理場				
活動目的	石垣牛のブランド化について・石垣市ミックス事業について				



## 概要

石垣牛のブランド化は、沖縄サミットにおいて各国首脳から高い評価を受けた事から売り出していく機運が広まったそうだが、まだ品質や肥育方法にバラつきが見られるとこのことで課題もあるそうだ。厳しい基準を設けて農協・行政・農家が徹底した形でブランド化を進めていく一方で、肥育頭数に限りがあり、子牛として出荷してしまうケースもあるそうだ。新基準に適合した食肉センターの新設など、攻めの姿勢に加えて観光客には、「石垣に来て食べてもらう」として、希少価値を見出していく戦略も見受けられた。実際に、3件の店で味わったが、価格や品質に多少のバラつきがあると感じた。伊賀牛のブランド化とは歴史も違うが、希少価値のある牛という観点から共通点を感じた。牧草は一年中生えているのでコストパフォーマンス的には石垣牛のほうが優位な所もあるだろうが、品質基準や徹底した肥育方法など差からすれば伊賀牛がまだ優っていると感じた。石垣牛の良さは、価格・品質・観光のマッチングが非常に良いところである。伊賀牛も観光と兼ね合わせた売り込みなど大いに参考になった。

ミックス事業については、現在進行形の施設を見る事が出来た。まさに完成に近付いている状況であった。施設にかかるコストの補助金の割合がかなり有利に働いている事が伺えた。年々、補助割合が建設機械部分にも及んでおり、国への申請の仕方次第では大幅に市単費用の軽減が図れる事が考察できた。水利組合や住民から特別な苦情や要望もなく、排水については畑のすぐそばの水路を使っている事に強い驚きを感じた。農業集落排水や下水道事業も進捗している中で、早期にミックス事業を進めなければならない状況は、観光客の増加や老朽化した処理場で能力が限界に達しているとの事であった。また、石垣市においては受益者負担金をしていないそうであるが、そのあたりの事情というのも沖縄県ならではのものであるとの回答でしかなかったが、有利な補助金や振興予算などが使えるのだなと感じた。名張市のミックス事業の進捗には、実際に補助金や裏起債など有利になるように考えながら進めてほしいと思う。機械設備や建屋など補助割合を十分に鑑みる必要がある事が考察できた。